

令和3年度 第2回 練馬区立学校(園)における教員の働き方改革推進委員会

1 委員長挨拶

- ・この一年間は、タブレットの利活用で試行錯誤した学校も多かったと思う。
- ・令和3年度9月から、出退勤システムが導入された。働き方改革はもう一段ギアを上げていきたい。

2 議題と主な意見

「出退勤管理システム導入後の教員の勤務実態」について

- ・80時間以上の超勤教職員には通知を出している。
  - ・該当者には自己診断チェックリストを提出させている。
  - ・疲労蓄積が認められた教職員には、産業医を紹介している。
- <主な意見> 「 」は事務局の回答
- ・システム対象者約2,800名はどのような構成になっているのか  
教員だけでなく、事務職員や栄養職員など都職の教職員が対象になっている。
  - ・学校によって差はあるのか。  
差はある。中学校の方が残業時間は長い傾向にある。学校規模の影響はない。
  - ・現場では、若手教員、それに伴う指導教員が長い傾向がある。
  - ・土日に来ている教員もいる実態がある。
  - ・職層別や年代、土日、教員と管理職の割合など、詳細な資料が必要ではないか。  
11月は行事・定期考査等で全体的に超勤時間が長い。副校長は80時間以上が約3割いた。  
若手教員の超勤時間は、中学校で長い傾向があった。  
職層による偏りは見られなかった。
  - ・コロナ対策の制限がある中での数値である。制限がなくなった時との比較も必要である。
  - ・各学校が時間の確保や、教員の意識を変えていく工夫が必要である。
  - ・各校の工夫した取組を紹介していくのが良いのではないか。
  - ・児童生徒用タブレット導入による影響はあるか。
  - ・超勤時間が長くなったという声は届いていない。
  - ・現場でも負担が増えたという感覚はない。
  - ・教材準備や事務作業など効率が良くなっている。
  - ・幼小連携でも連絡手段など時間削減につながっている。
  - ・K・I環境など複雑化しているものを単純化させてほしい。
  - ・教育施策課でも、タブレットを使用した校務改善を作業部会で検討している。
  - ・働き方改革には、授業の持ち時間数の削減やいねいな保護者対応が必要である。

「教員の働き方改革に係る来年度予算（人的配置）」について

- ・学校のニーズに答えるため、副校長補佐、スクールサポートスタッフ等を増やしている。

<主な意見>

- ・学校生活支援員が会計年度任用職員となり、短時間・短期間で働きたいという人の採用が難しくなった。
- ・「社会の力特別非常勤講師」で講師を紹介してくれたので、ありがたかった。
- ・学力向上支援講師がT1でできると教科担任制も効果が挙がるのではないか。

「コロナ禍における教員の働き方改革」について

- ・コロナ対応の負担感を教えてもらいたい。

<主な意見>

- ・陽性者、濃厚接触者の保護者からの聞き取りは時間がかかった。

「その他」

- ・地域連携事業で短時間勤務可の人材を確保していく。
- ・もう一段ギアを上げるためにどのような取組が必要か意見をいただき、今後の議論をしていきたい。

<主な意見>

- ・全教員のタブレット配布で成績・テストの処理ができれば大きな時間削減につながる。教員へのノウハウ等も含めて進めてもらいたい。
- ・特別支援教室の人的配置を検討してもらいたい。
- ・都立高でインターネット出願が増えてきた。通知表など諸帳簿もペーパーレス化できればよい。